

## ① 高津川森林組合の完成した新事務所を視察しました！

3月中旬に高津川森林組合の新事務所が完成しました。新事務所は高津川流域材を中心に全て島根県産材を使用した木造で、外観はオレンジの外装に緑の屋根で「1本の木」をイメージした造りとなっています。

玄関入ってすぐに見える執務室内はワンフロアで全体が見渡すことができ、一面に使われた木が見える工夫がされています。また視覚的に木の良さ出すように、丸太柱やのもの梁（加工せずそのままの木を使用した梁）を使用し、見せる仕上げとなっています。

梁に使用したマツは、昔ながらの大工さんの技術により手加工で梁組がされています。

内装壁は窓上まで杉板を化粧貼りとなっており、空間全体に木の温もりが感じられました。

木材の地産地消のみならず、さまざまな点で木の良さを活かす施主のこだわりが感じられました。



新事務所外観



正面玄関入り口



正面玄関梁（スギ）



執務室内装①

R4年度

益田事務所 林業部 ホットニュース (4月号)



執務室内装①



梁 (マツ)



梁 (スギ)



天井板 (スギ)



組合長室内装①



組合長室内装②

R4年度

益田事務所 林業部 ホットニュース (4月号)



協議用テーブル (ヒノキ)



執務室床 (ヒノキ)



化粧柱 (スギ)

**①益田市喜阿弥町において、ニホンザル被害対策講習会を開催しました！**

令和4年5月10日(火)に、益田市開発地営農研修センターにおいて「ニホンザル被害対策講習会」が開催され、西部農林水産振興センター益田事務所の鳥獣担当が講師を務めました。喜阿弥開発地において、ニホンザルによるブドウの被害が発生したことから講習会を開催することとなり、当日は、10名のブドウ農家の方々に参加いただきました。講習会では、ニホンザルの基本的な生態や行動特性、対策技術について紹介しました。また、益田市農林水産課の職員からは、被害対策のための柵に使える補助金の説明もありました。

座学で防除技術等を紹介した後は、実際に屋外に展示した電気柵と、ワイヤーメッシュ柵と電気柵を組み合わせた複合柵を見ながら、対策時のポイントなどを説明しました。



研修会の様子



屋外での侵入防止柵の説明

## ① 新しい日原保育園を視察しました！

6月初旬に津和野町が移転新築工事を進めていた日原保育園が完成しました。保育園は木造平屋で高津川流域材を中心に500m<sup>3</sup>以上の木材が使用されています。総事業費は3億1千万円で28名の園児が入園されました。

遊戯室をはじめほぼ全てのフロアには無垢の杉が使用されており、温もりを感じました。触れた感触も柔らかさが感じられ、裸足で駆け回ることが多い園児に配慮されていました。

また、バルコニーのウッドデッキや園庭の砂場と畑の柵など雨風が当たる場所の木材には、**Es-wood**加工が施された杉が使用されていました。**Es-wood**加工は窒素を使用して木材の耐久性・防腐性能を高める処理で、薬品を一切使用していないので、園児が触れても安心です。

ロッカーや靴箱、机や椅子など園児が触れるものは木製製品が使用されており、隅々まで木へのこだわりが感じられました。

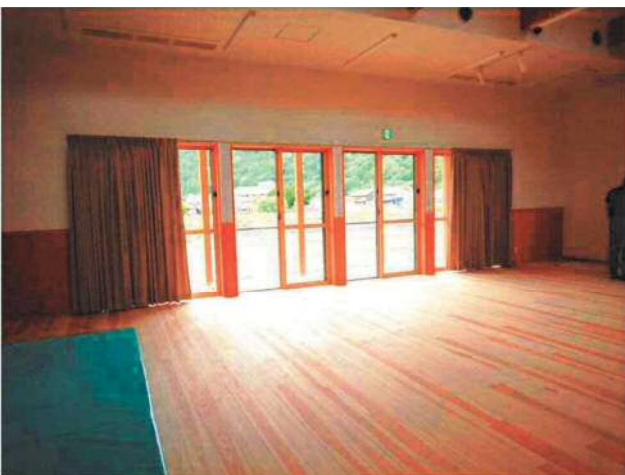
今後、入園される園児も増えるということで、保育園がさらに賑やかになりそうです。



保育園外観①



保育園外観②



遊戯室



遊戯室の梁、採光窓

R4年度

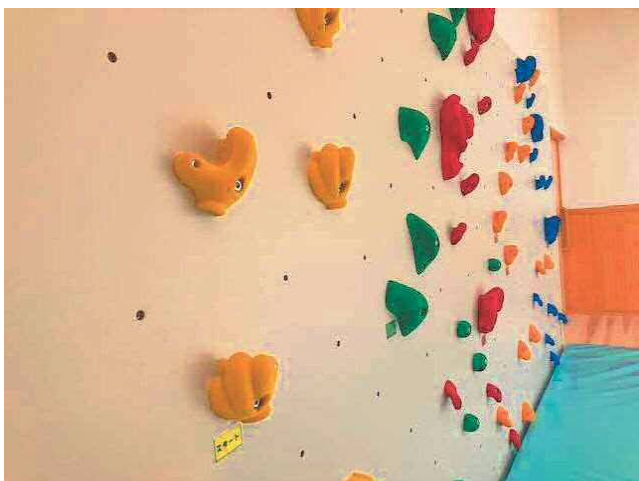
益田事務所 林業部 ホットニュース (6月号)



柱 (遊戯室)



梁 (遊戯室)



ボルダリング壁 (遊戯室)



バナナ型のホールド  
(遊戯室)

R4年度

益田事務所 林業部 ホットニュース (6月号)



遊戯室フローリング



子育て支援室



壁には☆型のイラスト  
(子育て支援室)



保育室①



保育室②



木製椅子 (保育室)

R4年度

益田事務所 林業部 ホットニュース (6月号)



木製おむつ交換台 (保育室)



木製机 (保育室)



木製ロッカー (保育室)



相談室



病後室



R4年度

益田事務所 林業部 ホットニュース (6月号)



バルコニー (西側)



ウッドデッキ (Eswood加工)



バルコニー (東側)



靴箱



ウッドデッキ (Eswood加工)



指はさみ防止用ストッパー

R4年度

益田事務所 林業部 ホットニュース (6月号)



砂場 (枠はEswood)



畑 (枠はEswood)

## ① ロージンググラップル実演研修会を開催しました！

6月21日(火)に、益田市美都町宇津川地内において、イワフジ工業(株)が開発したロージンググラップル(油圧集材機、架線式グラップル)の実演研修会を開催しました。当日は、素材生産業者、森林組合、市町の林務担当者や森林管理署など多くの林業関係者の参加があり、イワフジ工業(株)の開発担当者から、荷上げ、送材、荷下ろしによる集材実演、リモコンの操作説明などを行っていただきました。

ロージンググラップルは、材の荷上げから荷下ろしを架線式グラップルで行うとともに、油圧集材機と架線式グラップルをリモコンによる遠隔操作で行うことが出来る架線集材機です。この機械により、作業の効率化と労務軽減を図ることが可能となります。参加者からは、「価格はどのくらいか」「どのくらいの重量まで運搬できるのか」「どの程度の作業効率アップが見込めるのか」など、多数の質問が有り、関心の高さを感じました。今後の架線集材の効率化に向け有意義な研修となりました。



機械説明



機械説明



運材作業



荷上げ作業

## ② 益田翔陽高校の3年生が製材所と下刈り現場を見学しました！

今年度、木造の油庫製作に取り組む環境土木コースの3名について、製作活動の一環で林業と木材産業について学習するため、丸太の製材現場と林業の施業現場とを見学しました。

7/6(水)に安野産業(株)で丸太が加工され梱包用材とパレット材になる過程について実際に見学しながら説明を受けました。生徒からは、木材の用途として建築用材以外にも幅広く利用されていることを初めて知ったとの感想がありました。木材乾燥による収縮の異方性(縮む方向の違い)や、広葉樹パルプの用途など専門的な質問もありました。

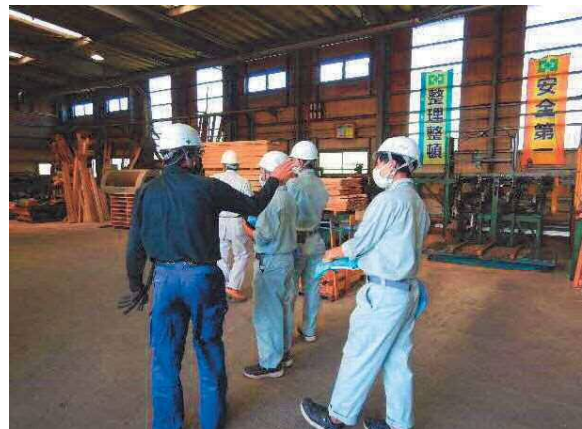
7/8(金)は(株)美都森林の下刈り現場で、作業員が作業する様子を見学しながら説明を受けました。下刈りはおおよそ1反(約1,000m<sup>2</sup>)/人・日程度行い、23名いる作業員は若い人も多いとの説明がありました。また、現場によって刈り払い機に使う刃(笹刈り刃とチップソー)を使い分けるとの説明もありました。

既に授業で刈り払い機を使用した生徒もおられ、意見交換では「雨天でも仕事はやるのか」「夏以外はどのような仕事をするのか」との質問があり、実際に現場の仕事をイメージすることができたとの感想がありました。

参加した生徒の中には将来林業への就業を希望している方もおられ、今後も生徒へのサポートや授業の開催を行う予定です。



製材所見学の様子①



製材所見学の様子②



下刈り現場見学の様子



刈り刃の説明を受ける生徒

## ③ JA営農センターにてイノシシ、サルの鳥獣対策講習会を行いました！

令和4年7月15日(金)の午前に2回、JAしまね益田グリーンセンターで開催された展示会の中で有害獣対策研修会を実施しました。当事務所の鳥獣担当が、展示会に来られた一般の方と農業者に向けての講習を行い、実際の被害や対策について、写真、動画、データ等を使用しながら、わかりやすく解説しました。来場者の方からは、サルの生態に関する質問やこれまで知らなかった生態を知ることが出来たという意見がありました。

鳥獣や対策方法に関する正しい知識を持つことで、しっかりと被害を無くすことが出来ます。鳥獣被害で困っている方々に、正しい知識を伝えられた良い研修になりました。



研修会の様子



グラフを使用して益田管内の鳥獣被害の状況を解説

## ④ JALしまね津和野支店にてサル、クマの有害獣対策研修会を行いました！

令和4年7月15日(金)の午後に、JAしまね津和野支店で開催された栗部会総会にて、有害獣対策研修会を行いました。津和野の名産品の一つであり、近年需要が高まっている津和野栗の生産者さんたちに向けての開催となりました。参加された部会員の方々は、栗被害を出すサルやクマの生態や被害対策について、真剣に話を聞いていました。

クマ対策としては電気柵、サル対策としてはワイヤーメッシュ柵と電気柵を組み合わせた複合柵が効果的ですが、実際に動物が電気柵で感電して逃げていく動画など、効果が目に見えて分かるものを示すと感心する声があがり、効果を理解していただけました。研修の最後には、質疑応答や意見交換が活発に行われました。



研修会の様子



話に聞き入る参加者の方々

## ①益田翔陽高校の2年生が農林大学校林業科で実習体験をしました！

8月23日(火)に益田翔陽高校の2年生5名が飯南町にある島根県立農林大学校林業科を訪問し、施設見学と実習体験をしました。

午前中は学校紹介を受けた後、ハーベスタシミュレータによるVR体験を行った他、学生寮や林業研修館等の施設を見学しました。

ハーベスタシミュレータでは実機と同じ手元の操作レバーで伐倒作業を体験しましたが、生徒たちはゲーム感覚で見事に操作していました。

午後からは農林大講師の指導と在校生の補助の下、チェーンソー体験、高性能林業機械(フォワーダ・スイングヤダ)操作体験、ドローン操作体験を行いました。

チェーンソー体験では機械の扱いに苦戦しながらも徐々にコツを掴み、伐倒練習機に立てた丸太を切る作業に汗を流しました。

また、近年、林業でも導入が進んでいるドローンの操作では、手元のタブレットでカメラ映像を確認しながら見事にドローンを飛ばしました。

今回の実習体験を通じて、生徒たちは林業や農林大に関心を深めた様子でした。



ハーベスタシミュレータVR体験



チェーンソー体験



フォワーダ操作体験



ドローン操作体験

**②林業普及指導員中国・四国ブロックシンポジウムで当事務所普及員が発表しました！**

8月31日（水）にオンラインで令和4年度林業普及指導員中国・四国ブロックシンポジウムが開催され、島根県代表として林業普及第二課の庄司（筆者）が高校生の林業学習の取り組みについて発表しました。

島根県では令和2年度から林業の担い手確保の取り組みの一環で、高校生を対象とした林業学習を強化しており、令和3年度は益田高校、益田翔陽高校、津和野高校の3校で延べ83名の生徒を対象に授業を開催しました。授業に参加された生徒の中には農林大林業科や林業就業を希望する方もおられ、着実に授業の成果が出始めています。

発表結果は島根県は惜しくも優秀賞で、最優秀賞には愛媛県の森林経営管理体制の構築に向けた取り組みが選ばれました。

今後も林業事業体や製材所の方々の協力も得て、より多くの生徒に林業に関心をもってもらえるよう、魅力ある授業を開催していきます。



治山模型を使った座学授業



架線集材現場見学

## ①益田高校の1年生が林業分野のICT技術を体験しました！

10月4日（火）に益田高校1年生13名が高津川森林組合にて、林業の仕事や林業分野で活用されているICT技術について学びました。当日は座学で植栽や下刈りなどの森林施業について学んだほか、林業分野で使用されているICT技術について、実際に生徒がパソコンを操作する演習形式で学びました。演習ではグループに分かれて地理空間情報ソフトで土地の面積を計測をしたほか、写真処理ソフトを使用して、ドローンによる森林の空撮写真から樹頂点を抽出して立木本数を計測する作業を行いました。

また、座学を終えた後に外の敷地でドローンの操縦体験を行い、操縦方法や写真の撮影操作について学びました。

生徒たちは授業を通じて林業で活用されているICT技術について理解を深めた様子で、今回の体験が林業という仕事に興味をもつきっかけの1つとなりました。



写真解析方法についての説明



土地面積の計測作業

## ②西益田地域において鳥獣被害対策学習会が開催されました！

10月22日（土）に豊田公民館において「鳥獣被害対策学習会」が開催され、当事務所の鳥獣担当職員が講師を務めました。この研修会は西益田地域の自治組織「西益田まちづくりの会」が主催し、地元住民30人程度に加え、益田市役所職員も参加しました。

研修会では、本地域で被害が発生しているイノシシ、ニホンザル、アライグマ、ヌートリアの4獣種に絞り、基本的な生態や特徴、被害対策のポイントについて紹介しました。研修の最後には、質疑応答や意見交換が活発に行われました。質疑応答では、「町中にアライグマが出た場合、どのように対応するのか」「イノシシが人慣れしないようにするにはどうすれば良いか」などの質問がありました。また、「狩猟免許所持者が地域に少なく、もっと若い人に免許を取得してもらい、被害対策に参加してもらうことが重要」などの意見がありました。

鳥獣被害対策の正しい知識を伝えられた上、地域の意識も高まった良い研修となりました。



研修会の様子



電気柵について説明



## ① 豚熱感染拡大防止に係る情報交換会を開催しました！

10月26日（水）、いわみーる会館（浜田市野原町）において、当事務所管内の3市町で感染が拡大している野生イノシシの豚熱について、家畜防疫上の適切な対応とともに、これに伴い影響を受ける事業者等への対応について情報を共有するため、情報交換会を開催しました。

参集範囲は、西部地域9市町家畜防疫及び鳥獣担当職員、県農林水産部農林水産総務課及び農畜産課職員、西部農林水産振興センター各林業部及び家畜衛生部職員でした。

始めに農畜産課担当者から、県内の野生イノシシ豚熱感染と養豚場等における豚熱ワクチン接種状況について報告がありました。次に、野生イノシシ豚熱経口ワクチンの散布演習結果と今後の散布計画について説明がありました。

その後、吉賀町担当者から、吉賀町における豚熱発生に関わる対応と今後の課題について、スライドや動画を用いて情報提供がありました。

さらに、感染確認区域におけるジビエ利用についても率直な意見交換が行われ、今後も、情報共有を図りながら、感染拡大防止に努めることが確認されました。



情報交換会の様子



吉賀町による発表

## ② 桂平小学校で今年も「クマから身を守る方法」研修会が開催されました！

11月11日（金）に益田市立桂平小学校において、今年も「クマから身を守る方法」研修会が開催され、当事務所の鳥獣担当職員が講師を務めました。この研修会は益田市二条地区の自治組織「二条里づくりの会」が主催し、児童13人と地元住民6人が参加しました。

研修会では、クマの生態や自然界における役割、クマに出合わない方法、出合ったときの対処法について説明し、児童たちに身を守る方法を実践してもらいました。

この研修会は今年で4回目となり、児童たちも以前学習した内容を思い出しながら積極的に手を挙げて質問に答える姿が見られました。用意したツキノワグマの剥製は去年より大きなものであり、児童たちは興味深そうに観察していました。剥製を見ながら「これは本物なのか」「思ったより爪が大きく鋭い」「大きくて迫力がある」といった声がありました。

今年はツキノワグマの出没は全県的に少ないものの、特に秋はクマの出没が増加する傾向にあるため、日頃からクマに出合わないよう注意することが大切です。



大きな剥製に興味津々の参加者



防御姿勢を実践する児童たち

## ① ますだ産業祭で林業をPRしました！

11月6日（日）に益田市市民学習センターでますだ産業祭が開催されました。当日は林業の仕事をPRするためのブースを設置し、ハーベスタシミュレータとチェーンソーVR体験、電動ショベル操作体験を実施しました。

当日は小学生から高校生までの生徒を中心に約60名の来場者がありました。ハーベスタシミュレータ体験では実機と同じ手元の操作レバーで伐倒・造材・玉切り作業を体験しました。子どもたちは最初はたくさんのボタン操作に慣れない様子でしたが、慣れると楽しそうに操作をしていました。

最も人気が高かったのはショベル操作体験で、（株）ライト職員の指導のもと、バケット操作や前後進の運転操作を体験しました。来場者へのアンケートでは体験を通じて林業へ就職してみたいと回答された方が8名おられ、主催者として今回の体験が将来の仕事を目指すきっかけとなれば幸いです。



ハーベスタシミュレータ操作体験



電動ショベル操作体験

## ② 益田市乙子町において、トタン巻きの現地指導を行いました！

11月30日にツキノワグマがカキに誘引され、庭先にあるカキの木に登るということで、当事務所の鳥獣担当が、トタン巻きの現地指導を行いました。

指導では、トタン巻きの際にクマが足を掛けられる場所を作らないことが重要であるという説明をしました。例えば、ロープなどでトタンを締め付けないようにすることや、穴が開いていると足を掛けて木に登ってしまうので、破損した場合は、修繕する必要があることがあげられました。

また、現場では利用しないカキの木は、伐採するのも一つの手だという話もあり、「クマに会わないために必要だなあ」と参加者からの声もありました。

島根県では、カキなどの果樹が多く庭先などに植わっており、ツキノワグマだけでなく他の動物も誘引してしまうので、今後も誘引物対策を指導することによって、人身被害だけでなく、農作物被害を軽減していけるよう支援を実施していきます。



登られたトタン巻き



クマの爪跡



完成したトタン巻き

## ③ 瀧元枕瀬公民館にて有害鳥獣対策講座を開催しました！

令和4年12月20日（火）に、津和野町の瀧元枕瀬公民館で開催された「第36回つわの百姓塾」にて、有害鳥獣対策講座を実施しました。「つわの百姓塾」は新規就農者等を対象に、津和野町農林課農業担い手支援センターの主催により開催され、当事務所の鳥獣担当が講師を務めました。講座の中では、「有害鳥獣対策」ではなく「鳥獣による農作物被害対策」と表現することにより「農作物を守ろう」と自分事として考えることが大切である」との前置きから、被害対策のポイントについて解説しました。

講座後の質疑応答では、「狩猟免許取得時の手続きや費用はどのようなものか」「箱わな設置時にはどのような誘引方法が良いか」といった質問があり、活発に質疑が行われました。

多くの方が正しい知識と対策の意欲を持つことにより、地域の中での被害を減らせるよう、今後も尽力していきたいと思っております。



会場の様子



スライドを活用し解説

**①高品質・高付加価値木材製品出荷拡大研修を開催しました！**

令和5年1月31日（火）に益田合同庁舎で高品質・高付加価値木材製品出荷拡大研修を開催しました。研修ではスギトラス梁の活用についての情報提供と、万博を控えた大阪木材業界の情報提供があり、管内の製材所、工務店の方々を中心に**25名**の出席がありました。

スギトラス梁の活用についての情報提供では、県林業課の後藤専門林業普及員から、非住宅中規模建築物において、活用が想定されるスギ**6m**トラス梁の説明がありました。**6m**トラス梁は、県内の製材所とプレカット工場のみで生産できるため、コスト面で考えると県外製材工場で県産ラミナ加工した集成材よりも、部材輸送の点でコストを抑えることができるとの説明がありました。

万博を控えた大阪木材業界の情報提供では、県大阪事務所の杉本課長から、会場でのシンボルである大屋根のリングに国産材を使用すべく、柱以外のところで板材を釘のみで固定する**NLT**の活用が計画されているとの説明がありました。島根県内の製材所にも**NLT**用の板材を供給できるチャンスがあるとの話がありました。

県では、高品質・高付加価値製品の出荷拡大を目指しており、今回の研修がその一助になれば幸いです。



研修会の様子

## ①「森で海を救おう植林事業」が開催されました！

この事業は漁業者と林業関係者、児童・生徒が共同で植林事業に取り組むことで、「森・川・海」のつながりへの意識を高めるとともに、健全な森づくりを実践し豊かな漁場を維持していくことを目的として、益田市沿岸漁業水産振興協議会が主催して実施しています。

今年も、2月20日(月)に益田市大草町の民有林で、市内の園児や児童、漁業関係者等、約60人が参加し、当事務所林業部職員指導のもと、クヌギ、アカマツ、スギ、ヒノキの苗を計440本を植栽しました。

特に穴を掘るのは大変な作業でしたが、参加した小学生は「苗木が大きくなるのが楽しみで、大きくなったら見に来たい。」と、成長を心待ちにしていました。

作業を通じて、森づくりをすることで、水環境の保全と栄養分の富んだ水が海へ供給され、豊かな海を育てることを学びました。



植栽風景



標柱を設置

## ①ニホンザル被害対策研修会が開催されました！

島根県西部地域では、ニホンザルの群れが多く分布しており、益田市、津和野町、吉賀町でも群れが確認され、農作物被害が課題となっています。そこで、ニホンザルの被害にあわれている農家や地域住民の方々为主体となって、農作物被害を軽減することを目的に、石西地域農林振興協議会が主催となり3月7日(火)にオンライン研修会が開催されました。管内の各地域に会場を設け、合計39名の参加者が受講されました。

講師には兵庫県立大学 山端直人教授、NPO法人里地里山問題研究所 鈴木克哉代表理事のお二人をお迎えしました。ニホンザルの生態から、明日にでも出来る防除方法、追い払いのコツなどを、お二人の地域作りの実体験を元にお話しいただきました。「餌があって、安全な場所に野生鳥獣はやってくる」「山際の果樹や、田んぼのヒコバエがサルの餌となり、無意識にサルを地域に誘引してしまっている」など、具体的でわかりやすい内容となっていました。講演を聴いた参加者の方々からは、わかりやすく、学びになったという感想が多く、「鳥獣対策に興味を持つ良い機会となった」「一人では防げないので、横の繋がりが大事だと思った」「早速試してみたい」などの声がありました。

ニホンザル対策は、地域が一体となり、連携して長期的に活動していくことが大切です。みんな話し合いを重ねながら、安心して暮らせる地域を守っていきましょう。



益田会場の様子



匹見会場の様子

## ②国際家具見本市に益田市内の木工所があんどんを出展しました！

2月28日(火)～3月3日(金)までの4日間、東京ビッグサイトにおいて「東京国際家具見本市」が開催されました。島根県産材製品を常設展示している大阪府のアジア太平洋トレードセンター(ATC)が本見本市にブースを設け、益田市内の平和木工(有)のあんどんが展示されました。

あんどん(行燈)の骨組みは高津川流域産のヒノキ材で作られ、紙部分は石州和紙が使用されています。骨組みはできるだけ細くして、和紙の温かみが表現された製品となっています。高さ75cmのタイプに加え、今回の展示用に小型の高さ45cmのタイプが新たに製作されました。来場者からは持ち運びやすく、柔らかい明かりで趣きがあると好評でした。

他のブースではスギやヒノキを用いたテーブルやソファが展示されているのをよく見かけました。担当者に話を伺うと、ウッドショックの影響から、外材広葉樹の価格が高騰しており、国産針葉樹を使用した家具開発に着手しているとの話があり、家具業界にも国産材需要が高まっていること改めて認識しました。

コロナも終息の兆しが見え、大規模な展示会も増えてきたので、県産材製品を積極的にPRし、出荷拡大につなげていきたいです。



ATC出展ブース



あんどん(平和木工有限会社)



ソファとダイニングテーブル(ヒノキ)



3mのテーブルと椅子(スギ)